| ページ | 項　　目 | ご意見・ご提言 | ご意見に対する町の考え |
|---|---|---|---|
| 表紙 | タイトル | 「2.0」を付ける必要があるのか？　タイトルも変わっているし、一般的には分かりづらい表現と思う。 | 本山町男女共同参画計画と追記する。 |
| １頁 | １．プラン改定の趣旨 | H１７年「もとやま男女（とも）に輝くプラン」策定の経過があり、"しかしながら"として、今回の策定へとつながっているが、この間の到達など総括が充分に記載されないまま、"しかしながら"で、転換していくのは、いささか説明不足と考える。この間の議会での執行部の答弁などを引いて、加筆の必用があると考える。<br>（例えば、以下の様に提案する）<br>『また、平成１７年１１月・・・・・取り組みを目指してきました。』の段落の後に、<br>以下の文言を付け加え、最後の段落は削除する。<br>『国・県からのポスター掲示・配布活動などを通じて、住民への啓発活動の実施。農家の「家族経営協定」の締結など、行政のあらゆる分野で「もとやま男女（とも）に輝くプラン」の理念を活かしてきました。しかしながら、性の多様性など社会情勢の変化を考慮し、見直しに着手しました。また、多様な性のあり方に対応するため、２０２６年１０月より、「パートナーシップ制度」の導入もおこないました。<br>そうした経過を経て、誰もが自分らしく暮らし、地域をつくる一員として、地域社会に参画することを目的として改定するものです。』 | 平成17年以来、男女共同参画計画としての取組が不十分であったことからプラン改定の趣旨とした。 |
| 5頁～<br>13頁 | ２．計画策定の背景 | どの計画にも見られることであるが、資料的なものであることから、計画の最後に持ってくる方が、計画としては見やすいと考える。 | 県の計画策定のひな型に基づき作成している。 |
| 15頁 | （４）家庭・職場・地域向けの・・・ | この項に、男女共同参画を進めることは、『まちづくり』の課題であることを明記し、公民館活動に位置付ける文言の追加要請する。（取組の柱４に、まちづくりの項があるが、行政からの啓発に留まらず、住民自らが考える場の提供の観点からの提案である。） | 頂いたご意見が、各種計画に反映されるように働きかけていく。 |
| 17頁 | 災害時の女性参画促進 | ・防災会議に「女性部会を設置する」を追記することを要請する。 | ・防災会議に限らず、災害時における女性の視点は重要と考えている。<br>・防災会議にて部会の設置含め、要請をしていく。 |
| 17頁 | （２）女性リーダーの育成と女性の参画機会の確保 | ・このタイトルの最後の確保⇒必要性と変更することを要請する。 | タイトルについては反映を予定していない。 |
| | | ・「・・・避難所での不便を解消するために」の後に、『女性部会の設置を目指し』を挿入する。ことを要請する。 | 要請は行う。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 18頁 | （3）各分野での家族経営協定・・・ | ・「農家以外の各分野において・・・・主体的に参画できる環境づくりを支援します。」と、あるが、支援の具体的な方策について、書き込んで欲しい。 | 具体的な方策については、これからの検討課題である。 |
| 22頁 | 取組の柱４<br>【目指す姿】 | ・最後の段落で、「小規模であるからこそ、・・」で、始まっているが、小規模であるかないかは、男女共同参画、住民参加のまちづくりは進めるべきものだと思うので、「小規模」を引き合いにするのは、どうかと考える。一考をお願いする。また、「女性の参画によるきめ細かい施策」とあるが、これは、女性がきめ細かいという決めつけになっていないか。女性への偏ったミカタの様にも思える。以下、取組のねらい・内容についても同様の記載があるので併せての検討を要請する。 | 自治体の規模に関係なく、男女共同参画を推進する必要があると考える。本町は小規模であるが、活動を推進している。計画には、男女間における女性の地位向上を目指すことが根底にある。 |
| 22頁 | 【取組のねらい】<br>本山町の強みを活かした地域活性化 | ・「本山町の強み」の定義は何か？前段の「目指す姿」の所に、縷々、触れている内容かと察するが、そのことを強みとはどこにも記載がない。この言葉を使うなら、定義を示すべきと思う。 | 強みの定義は、地域資源や町の豊かさなど、それぞれが思うものであると考える。 |
| 23頁 | 25年・50年先を見据えた未来投資 | ・投資というタイトルに比して、その内容には、投資の具体的記載が無い。 | 未来投資は具体化されたものではなく、本計画の礎となる。政策に若者の声が反映されるような場の推進をしていくことと考える。 |
| | | ・「選ばれる本山町を共創します。」と、あるが、ここの共創は、若者を指していると考えるならば、『選ばれる』の文言でない方が良いと考える。少子化対策でも『選ばれる』と言う言葉がよく使われるが、選んだつもりはないが、この町に生まれて来た住民も含め、住みやすい、住んで良かった、生まれて良かったというまちづくりを進めて行くことが、大事と考えるので、書き方の工夫を要請する。 | 本町を離れた若者が、25年50年先に本町に帰りたいという選択ができるような本山町を目指すために、交流の場をつくること、コミュニティが希薄にならないことが目的である。 |
| その他 | | ＊「パートナーシップ制度」導入は、誰もがその人らしく暮らせるという、男女共同参画の課題においても、前進事項と思うので、そのことについても、具体的に記載しては、どうか。「ファミリーシップ制度」の導入が、今後の課題になっていることも含め、パートナーシップ制度を更にすすめ、同性婚の法的位置づけも必要になって来ると思う。 | いただいたご意見はそれぞれの分野や主管課で対応する。 |
| | | ＊本山町の「少子化・人口減対策」において、出産可能年齢を対象とした事業は、女性を「産む性」として捉え、出産を望まない（望めない）ものに対する排除になりかねないと考え、「誰も取り残さない」「多様な性を尊重する」とした、男女共同参画のプラントは、相反するように感じる。この際、こうした政策の見直しも検討すべきでないか。 | |